

中華人民共和国		首都	ペキン（北京）
 <p>五星紅旗ともいわれる。赤は共産主義のシンボルの色で、大きな星は中国共産党を、4つの小さな星は労働者、農民、知識階級、愛国的資本家の人民を表している。星の5つの光は国民の一致を示している。</p> <p>国家成立：1949/10/1 国連加盟：1945/10/24 政体：社会主義人民共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 9,597,000 km ² （日本の25倍） ロシア、カナダについて世界で3番目に大きな国で、東部沿岸の平原地帯から西に進むにつれてしだいに標高が高くなる。東部は揚子江や黄河流域に広大な沖積平野が広がり、西部はパミール高原、崑崙山脈、天山山脈、チベット高原などの山岳と高原が連なり、その間にタリム、四川などの広大な盆地が展開している。
		人口	13億1580万人
		言語	中国語（漢語）、少数民族言語
		通貨	元
		気候	全体には温帯に属し、西乾東湿、北冷南暖の気候である。西部は大陸性気候で、モンゴルからタリム盆地にかけてステップと砂漠が広がり、チベット高原などの山岳地帯は高山気候である。東北地方は冬に寒冷な大陸性冷帯気候で、黄河、揚子江流域の華中は温帯モンスーン気候、華南は亜熱帯モンスーン気候である。
		民族	漢民族93%、チワン族、ウイグル族、イ族など55の少数民族
		宗教	道教、仏教、イスラム教、キリスト教、無宗教
教育 制度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年制（学校全体の35%）、6年制（65%）、中学校3年制（98%）、4年制、高校3年、大学（3～5年間）である。中国語では大学のことを「高校」という。 ・財政的な理由から、地方では小学校が5年制をとることも多い。 ・日本と異なるところは、学校教育の質的向上を図る中核的な役割を担う「重点学校」が指定されていることである。これは、幼稚園から大学まで、各学校種ごとに決められている。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校及び初級中学の9年間（6歳～15歳）が義務教育期間である。1986年、初めて全国的な義務教育の実施を定めた「義務教育法」を制定、施行された。 ・新学年は9月から始まる。毎年9月1日以前に生まれ、満6歳の児童は新入生として家の近くの小学校に入学できる。子どもの発育や病気等で、1年遅れて入学させることがよく 	

	<p>ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方の格差があるため、条件の整ったところから義務教育9年が完全実施されている。(85%)しかし、近年は過疎地や農村地域の小学校を統廃合したため、20年足らずで、学校数が半減した地域も出るなど、家庭によっては子どもたちの教育を受けさせる機会を失っているという問題が出ている。 ・初級中学入学は、試験を実施している地域もあるが、近年は無試験入学を実施する地域が多くなった。人口抑制のため、産児制限が実施され、「一人っ子」政策が都市部では定着してきている。従って、子どもへの期待が大きく、勢い、教育熱は過熱気味で、経済的に余裕のある家庭では、小学校から家庭教師をつけるなど受験競争が激しい。 ・教科書は有償であるが、無料化に移行しつつある。 ・義務教育のほかに無償で受けられる教育がある。学費のみならず、その他必要な諸費用も無料である(マカオ) <p><台湾></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民小学6年間と国民中学3年間が義務教育で、6歳からの就学で学校年度は8月~7月である。
<p>日本と比較した教育課程上の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は9月1日~7月中旬で2学期制をとっている。 ・1学期は9月1日~1月中旬、2学期は2月中旬~7月中旬となっている。 ・小中学校の教育課程を規定する「教学大綱」が2001年、「課程標準」に改定された。その特徴は、小中学校に9年間の一貫性を導入して統一すること、国が設定する教育課程の他、地域課程及び学校独自の課程(全体の15%)も認めることにある。また、学年別ではなく、到達目標を学習段階別に設定すること、週当たりの教科時間数を示すことなども特徴となっている。こうした転換の背景には、近年の小中高校の入卒者数の増大によって、少数のエリート教育から大衆教育へと、中国の学校教育が急速な変化を遂げていることがあげられる。 ・軍事訓練(国防教育)が義務付けられている。 ・2005年より学校5日制となったが、都市部では受験競争が激しいため宿題や補習が多く、負担軽減が課題となっている。 ・授業変更がなく、1コマは45分で、8:10~16:30まであ

	<p>る。水曜日の午後は授業がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの人数は、大体1クラス40人前後だが、重点校（人気校）なら、1クラス60人あるいは80人のところもある。 ・休憩は、時限ごとの10分間の休憩と1時間の昼休みの他に、朝の10時位から30分ほど体操休憩がある。目の周りのマッサージから体操、冬場はマラソンもする。健康維持が目的だが、そうすることで学習効率もあがるそうだ。 ・近年、「素質教育」が叫ばれはじめ、「徳育・知育・体育」が特に義務教育の小中学校で重要視されている。 ・2001年から「総合実践活動」（日本で言う総合的な学習の時間）が示され、研究的学習や労働技術、地域奉仕（ボランティア活動）、社会实践などを行うこととされている。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育以降の学校には、普通高級中学、中学専門学校、技術労働者学校、職業中学がある。 ・高校進学をするのには、地域の統一入試に合格しなければならない。 ・高級中学への進学率は、初等中学卒業生の60%程度である。 ・大学は3年（専業）と4年（本科）あり、大学への進学率は2004年のデータでは、9%である。医学部は5年である。 ・大学への進学時に全国大学統一試験が行われる。この大学統一試験日は「黒い3日間」（黒色の三天）と呼ばれている。
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き家庭が多いので、3歳までは個人のお家庭に預けられるか、祖父母に頼るかする。3歳から保育園に長托（寄宿制、水曜・金曜帰宅、土曜・日曜自宅）と日托（通園、半日か全日）、時間制等がある。 ・学前班と呼ばれているプレスクールがあり、義務教育ではないが、ほとんど小学校1年の課程は全部学前班で学び終わるので、人気が高い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・受験戦争の激化、およびこれに伴う学習負担の増加や教育費の増加、知育偏重の傾向が課題となっており、特に生活水準の著しい向上と「一人っ子政策」の実施による子どもへの大きな期待と相まって、児童生徒の受験戦争は日本以上であると言われている。 ・中学2年生の後半位になると、受験を意識して勉強を始め、ほぼ毎日行われるテストの結果は黒板に張り出され、1クラス50～60人の生徒一人ひとりが毎日競争している。

		<ul style="list-style-type: none"> ・先生も生徒の成績でその能力が判断され、成績のよいクラスの場合は、学校の誇りとされるほか、評価にもつながる。 ・進学率の高い中学校校区に引っ越す親も出てきて、周辺の住宅費を上げているといったケースもある。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みは1月中・下旬～2月末、夏休みは7月中旬～8月31日である。 ・5月の初め（メーデー）と10月の建国記念日の前後もそれぞれ1週間の休みがある。 ・小学校の祝休日は全部で13週間、中学校は12週間、高校は10～11週間ある。
	学級担任制、 教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生は、語文（国語）と算数は担任の先生が教えるが、2年生からは全ての教科を専科の先生が担当する。 ・小学校から高校まで、成績は100点を満点として計算される。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・以前より飛び級と留年が少なくなった。 ・飛び級は厳しい審査がある。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教科は、語文（国語）、算術（算数）、外語（英語・ロシア語等）、政治常識（社会）、科学（理科）、体育、音楽、図画がある。これは、都市部の小学校の例であるが、地域によっては、音楽、図画等がない学校もある。家庭科に相当する教科はない。 ・都市部では、小学校1年から英語の授業があり、地方なら3年からのところが多い。小学校1年の英語はヒアリングと遊びだが、2年から文字を習い始める。 ・ネットワークを使った教員のいないコンピュータの授業がある。 ・理科の実験は中学校から行われる。 ・クラブ活動はない。 ・「一人っ子」政策のため、社会性が育ちにくく、我がままで協調性に乏しいなど、一人っ子による弊害が目立っている。そのため、学校では、集団行動・規律遵守・素朴勤勉の3つに重点を絞って行っている。具体的には、綱引きやなわとび、集団競技などを通して、仲間意識を育てるのもその一つである。 ・宿題は、日本と比べものにならないくらい多く、宿題忘れは罰として、朝礼の時に前に立たせることもある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の中には、日本語教育に力を入れている学校もあり、日本人教師が授業を担当し、日本語弁論大会なども開かれている。
学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日に、国旗掲揚式を行い、愛国心を育てる。 ・春と秋に1回ずつ遠足がある。(名所・工場見学など) ・運動会がある。 ・教師の日(9月10日)に学生作品発表会と生徒主催の大会などがある。 ・卒業式はない。 ・遊園地にいたり、映画をみたり、雪かきなどの作業をしたりする。 ・各種記念日(児童節・国慶節など)にセレモニーが行われる。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園から中学校まで給食がある。牛乳はあまり出ない。 ・弁当持参でもよい。 ・月単位で業者に注文して、学校で食べるか、自宅に戻って昼食をとるか、選択できる。 ・小学校には、食堂兼購買部のような店があり、お金を持ってきて学用品やお菓子などを買って食べてもよい。水道水は直接飲めないで、水筒かペットボトルを持参している。 ・家から毎日、飴やチョコレート、ビスケットのようなお菓子を持ってきて、友達と交換したり、あげたりしている。
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての授業の開始と終了にチャイムが鳴る。 ・号令はかけるところとかけないところがある。 ・日本の学級委員(代表委員)に相当する「三好学生」や「五好学生」と呼ばれる児童がいる。権限はかなり大きく、号令をかけるだけでなく、先生の片腕になってテストの採点を手伝うこともある。選ばれる基準は「知育・徳育・体育」の三つの面で優れた評価をもらった児童で、肩に三本線のマークをつける。この「三好学生」から学校全体で数名の「五好学生」に選ばれる。学校によっては「三好学生」のみの場合もある。さらに、思想・操行に優れたものが中国少年先鋒隊員に選ばれ、首に赤いネッカチーフを巻いている。
教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期初めに成績・目の状態・身長などを考慮して、決める。月に1回、列ごとに順に右に移動する。大体の教室に8列ある。

校則	<p>・規律教育も大変重視していて、先生は概して大変指導内容が厳しく、場合によっては体罰的な指導もあるという。例えば、登校初日に「小学生守則」（10 か条）を話して聞かせ、保護者にも知ってもらう。児童全員が携帯することになっている。</p> <p>①祖国を愛し、人民を愛する。よく勉強し、日に日に向上する。</p> <p>②登校時間を守り、無断で休まない。</p> <p>③熱心に授業を聞き、まじめに宿題をやり遂げる。</p> <p>④体を鍛え、進んで課外学習に参加する。</p> <p>⑤衛生に注意し、服装は清潔にし、みだりに痰をはかない。</p> <p>⑥勤労を愛し、自分のことは自分でする。</p> <p>⑦学校の規則を守り、公共の秩序を守る。</p> <p>⑧先生を尊敬し、友達と仲良くし、礼儀正しく、人をののしったりしない。</p> <p>⑨集団に関心をもち、公共物を大切にし、拾ったものは届ける。</p> <p>⑩うそはつかず、間違いをすぐに改める。</p> <p>・学生手則という校則がある。</p> <p>・校服と呼ばれている制服は各学校で定めており、着る日も学校が決める。（毎日着ない）</p> <p>・ランドセルはなく、鞆は好きなものを持ってきてよい。</p> <p>・登下校の際の交通安全のため、全国统一の小学生用黄色い帽子をかぶることが義務付けられている。</p> <p>・アクセサリー、化粧、携帯電話は禁止されている。</p> <p>・高校では、女子は長い髪にはいけない。</p> <p>・喫煙と飲酒は禁止されている。</p> <p>・見つかったら、厳しく処分される。</p>
保護者の授業参観、保護者会、PTA	<p>・保護者は学校からの許可（手紙）がなければ、学校には入れない。</p> <p>・年2回（学期に2～3回のところも）主に重要な試験の後に、保護者会（家長会）があり、成績、日頃の行動や態度について相談する。保護者会には子どもは出席しない。</p> <p>・学習参観はない。</p> <p>・教師と保護者の間には、連絡帳の交換も行われている。</p>

	<p>子どもの一日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝7：40までに登校し、8：10～11：30まで授業し、午後は12：50～16：30まで行う。 ・放課後は宿題が沢山あるので、外で遊ばずに、まっすぐ家に帰る。 ・都会では、週末は大体習い事や塾で時間を費やす。夜寝るのも遅い。習い事としては、バイオリン、ピアノ、絵画、スイミング、体操などがある。 <p>夏は昼寝をして、夜の10時位に寝る人が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総じて、中国は地方差がきわめて大きいので、日本のような均質な学校制度を想像することはできない。北京や上海に住む子どもたちは、日本以上に素晴らしい教育環境に恵まれて生活している場合がある。一方では、貧しい地域や農村部では、満身に学校にも通えず、家計を助けるため労働に励んだり、子守をしたりすることが多い。小学校を中退してしまう場合もある。
	<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少年先鋒隊（少先隊）という組織があり、成績が優秀で、リーダータイプの生徒が選ばれる。小学生は赤いスカーフを首に巻き、中学生は団バッチをつけている。少先隊の中では、役員は左腕に縞模様の腕章をつけ、縞の数が多いほどランクが高い。学校内での地位も高い。時には先生が出張するときに、先生の代わりに学級の管理も任されている。 ・長期休業中は学校内での補習は禁止されているが、先生の自宅での有料補習は禁止されていない。
<p>生活習慣等</p>	<p>言葉の指導面の留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢民族は全国の人口の93%を占め、残りの7%が55もある少数民族である。漢民族の学校では、漢語（北京語）は学校の標準語として使われている。 ・地方の方言はなるべく使わないでいるが、辺鄙な地域なら、先生は授業中まだ方言と漢語を混ぜて使っている。 ・少数民族に対しては、民族学校（小学校・中学校・師範学校・職業学校・中等専門技術学校・民族学院）が設置されている。言語と文字の両方がある場合は、その民族の言語で授業を行っている。独立な言語はあるが、文字がないあるいは不完全な場合は、漢語か民族言語かを選ぶことができる。少数民族のバイリンガル化は積極的に進められている。 ・音声アクセントが、呼気の強弱による違い（有気音・無気音）のため、日本のような清音と濁音の違い、長音・促音・

	<p>拗音の認識が困難なことが多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在形、過去形をあまり区別しなくても、中国語は通じるので、反対に、時制を使う表現が苦手である。 ・漢字は、中国式の略字（簡体字）を使う。日本と似た漢字もあるが、筆順や意味が違うことが多い。漢字の読みでつまづくことが多い。
宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> ・回族や少数民族は宗教上食べられない物がある。
指による数え方、計算方法の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・指での数字表示が日本と違うが、計算のしかたは同じである。 ・親指から順に小指に向けて数える。小指から親指に向けて数える人もいる。
食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・北部、中部、南部によって主食が変わる。一概には言えないが、北部はマントウ（小麦粉を蒸したもので、具は入れない）、中南部はご飯と麺類、都市部にはハンバーガー店もある。 ・宗教により、特定な食べ物（豚肉など）を食べない家庭があるが、家庭で自己管理している。 ・生ものを食べない人もいる。 ・朝食は外で食べる人が多い。 ・一般的に冷たいご飯は好きではないので、お弁当は必ず温めて食べる。おにぎりのようなものはなく、鯨の肉も食べない。
衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・広い国土のせいで、地方の差はかなり大きい。北の方では、暖房がしっかり設備されている。 ・少数民族で、民族衣装を着ているところもあるが、大体は洋服を着ている。 ・室内は土足である。 ・地方では、家にまだ風呂がなく、公共の風呂場に行くか、川で水浴びする。髪の毛は毎日洗わない。 ・全体的に乾燥した地域が多いため、風呂に入る習慣があまり無い。風呂はバスタブ方式が多い。銭湯はあまり無い。人前で裸になることがないので、宿泊行事の際は、別にするなどの配慮が必要にある。 ・暖房器具がないので、冬は室内と室外は同じ服を着ている。
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・人も車も右側通行で、信号があるが、交通規則がきちんと守れないところが多い。

		・信号は青に変わる前にも黄色信号になる。
	その他	・学校では靴は脱がない。 ・TVゲームがブームで、日本製のゲームは結構人気がある。 伝統遊びの一つである「羽根けり」や「ピン球」なども人気がある。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・教育事情あの国この国（中国の少数民族）・・・・・・・・全教研
- ・中国の子供たちの学校・家庭・暮らし（ハローワールド）・・・・学研
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・海外生活だより（中国の教育事情）・・・・・・・・CLAIR
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・凡人社
- ・日本語指導専任教師より（2名）
- ・留学生より（7名）